



一般社団法人 **日本LD学会**
Japan Academy of Learning Disabilities

会報臨時号

事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3-24-18 高輪エンパイヤビル 8F

URL <https://www.jald.or.jp>



一般社団法人日本LD学会
第4回研究集会（富山）

テーマ：

発達障害児・者に対する合理的配慮～「学ぶ・働く」を支える支援の在り方

オンライン開催

会 期

2021年1月24日（日）



日本LD学会第4回研究集会のご案内

実行委員長（富山大学）

西村 優紀美

1. 第4回研究集会開催に関して

日本LD学会第4回研究集会を2021年1月24日（日）に、富山で開催させていただくことになりました。新型コロナウイルス感染症の拡大の中、参加者・関係者の健康面・安全面を最優先すべきであると判断し、本研究集会はWeb（インターネット上でのライブ配信）による開催とさせていただきます。ただし、富山県在住で参加を希望される方においては、会場（富山大学 共通教育棟D11）での参加が可能となっています。また、非会員の方も参加が可能となっております。

研究集会は『発達障害児・者に対する合理的配慮～「学ぶ」と「働く」を支える支援の在り方～』をテーマに、基調講演とシンポジウムを企画しています。主に思春期から青年期の発達障害のある生徒や大学生を対象としていますが、小・中学校の先生方にとっても現在指導していらっしゃる子どもたちの未来像を描くことができる企画となっています。

基調講演には、東京大学先端科学技術研究センター准教授の近藤武夫先生から、『「学ぶ・働く」の可能性を広げる環境整備や合理的配慮』をテーマにお話しいただきます。さまざまな障害や病気のある生徒や学生が自らのニーズに適した方法で学び、働くこと、そして、高等教育への進学やその後のキャリア移行を視野にいたした支援に関すること等、多くの示唆をいただけるものと思っています。

シンポジウムでは、京都府立清明高等学校教諭の塩見匠先生から、「中学・高校における授業のバリアフリー化」をテーマに、高等学校での授業の工夫や通級における指導など具体的な教育方法についてお話しいただく予定です。また、長崎大学のPeter Bernick（ピーター・バーニック）先生からは、大学の障害学生支援担当教員の立場から、「大学における合理的配慮」をテーマに話題提供をしていただきます。

2. 当事者の視点を大切に

本研究集会では、支援者側の取り組みだけでなく、支援を求める側の当事者の方々にも話題提供していただく予定です。限局性学習症の大学生には、ご自身の特性に対する学びの工夫と合理的配慮に関する話をさせていただきます。また、自閉スペクトラム症の社会人の方には、就職に際してご自身の特性をどのように説明し、合理的配慮を求めていったかを話題提供させていただきます。どちらの方も、学びに関する工夫と配慮、あるいは働くうえでの工夫と配慮を実現するために、自身の障害を理解しつつ、適切な対処法を獲得してきました。それを支える支援者の存在はありましたが、自らの「学ぶ」と「働く」を保障する合理的配慮について、貴重な体験談を語ってくれることと思います。

3. 大学における障害学生支援

アクセシビリティの確保は、障害者の権利保障をめぐる動きを背景として、日本だけでなく国際的にも重視されています。2016年に障害者差別解消法が施行されたことを機に、大学における障害学生支援は権利保障として大きく動きだしました。2019年度の日本学生支援機構の調査によると、大学・短大・高等専門学校に在籍する全学生(3,214,814人)に占める障害学生(37,647人)の在籍率は1.17%でした。10年前の2009年は全学生(3,207,123人)に占める障害学生(7,103人)の在籍率は0.22%であったことを考えると、

この10年間で障害のある高校生の大学進学が非常に多くなっていることに気づかされます。全国の大学・短大・高等専門学校では、96%の学校に障害学生支援担当部署が設置され、支援担当者が障害のある学生の修学支援を行っています。高等学校にも各校に特別支援教育コーディネーターが任命され、生徒への配慮や教育方法の工夫が行われています。特別支援教育と障害学生支援は考え方や支援方法に違いがあると言われていますが、教育を受ける生徒や学生にとっては、連続する人生の大切な時期であることを、私たち教育者・支援者は忘れてはなりません。発達障害の特性がある生徒や学生が、大学進学や社会的自立に向けて自らのキャリアデザインを考えていくための教育の工夫や支援の在り方について、皆様と一緒に議論していきたいと思っています。多くの方々のご参加をお待ちしております。

お申し込みは、以下のURLからお願いします。

<https://confit.atlas.jp/guide/event/jald2020/static/regist>



〈プログラム〉

2021年1月24日（日）

10:00～10:10 開会挨拶

実行委員長：西村 優紀美（富山大学）

10:10～11:20 基調講演

「学ぶ・働く」の可能性を広げる環境整備や合理的配慮

講 師：近藤 武夫（東京大学先端科学技術研究センター）

司 会：宮 一志（富山大学）

13:20～16:00 シンポジウム

テーマ：合理的配慮の内容決定に至る建設的対話の在り方

企画者・司会者：

西村 優紀美（富山大学）

オンライン担当：

水内 豊和（富山大学）

13:20-14:00 第1部

話題提供者：

「中学・高校における授業のバリアフリー化」

塩見 匠（京都府立 清明高等学校）

「学びの保障～高校と大学での合理的配慮について～」

堀口 里奈（大学生）

14:30-15:10 第2部

話題提供者：

「大学における合理的配慮」

ピーター・バーニック（長崎大学）

「学ぶこと・働くこと～社会で生活すること」

アスカ（社会人）

日下部 貴史（富山大学）

15:10-16:00 指定討論・質疑応答

指定討論者：近藤 武夫（東京大学先端科学技術研究センター）

※および上記シンポジウムの企画者・話題提供者

16:00～16:10 閉会挨拶

副実行委員長：宮 一志（富山大学）

広報委員会より 研究集会も、はや4回を数えます。学齢期の児童生徒支援に励んでおられる先生方にとっては、愛する教え子が、卒後どのように社会への階段を歩んでいくのか、果たして歩んでいけるのかと期待や不安をお持ちであられることでしょう、またできることであればより良い階段の上り方を子どもたちに身につけさせたいとも思われているのではないのでしょうか。そんな階段の一步目を考える貴重なセミナーが企画されています。

「冬の富山！紅がに、寒ぶり、たら汁を食べたつもりで研究集会！」

Webを通して温かい学びの輪が広がりますように！